

# 昭和37年度 (1962) 第2回大会

男子優勝 札幌南

女子優勝 札幌静修

## 【 専門委員長 寸評 】

今年道協会より個人戦に四個のカップが寄贈され、選手も張り切り、熱戦を続けた。3日間の日程で、本年度は個人戦の方も3セットマッチを行う事ができたが、シングルス3名、ダブルス2組に制限した。参加校は札幌西高校が新たに加わったがやはり札幌地区に限られており今一步の感がある。

(専門委員長 相原 嘉正)

## 優勝のよろこび

男子 札幌南高等学校

7月1日。今年最高の暑さという、炎天下で第2回高体連庭球大会が、小樽潮陵高校で行われた。前日の夕方旅館に着き、その晩いろいろと作戦を立て、床に入っても大会のことが気になり、又、外の砂利トラックの音に悩まされ、十分な睡眠をとる間もなく夜が明けた。空はからりと晴れ上がり風一つない上天気、いつもより早い食事をすませて会場に向った。潮陵高校は、小樽のはずれの小高い丘に立ち、そこから見下す小樽の港はわずかにかすんでいて大きな船が見え、札幌では見られない海のよさがあった。

開会式の後すぐに競技に入った。南高はBブロックで小樽緑陵・札幌東・札幌南でリーグ戦を行い、Aブロックの1位との対戦で優勝を争うのである。予選のブロックリーグでは、緑陵との一戦が苦しく、一球一球大事にボールを扱う戦いぶりに我々もそうとう走らされたが、どうにかストレート勝ち出来、その後行なわれた札幌東戦に勝ち、翌日行われる決勝戦に駒を進めた。その晩も、砂利トラックと自動車の騒音に悩まされ、疲労が十分回復しないで決勝戦に臨んだ。前日の試合から見てダブルスが対潮陵戦のキーポイントであるように思えたが、案外楽にダブルスをとれたのでストレートで勝ち優勝することができた。

クラブ員一同の努力が実り1回大会に続いて2連勝出来ほんとうにうれしかった。クラ

部員一同優勝をめざしてのきつい練習だったので、優勝の一瞬のあの喜びは一生忘れることの出来ないものだった。優勝の夜はみんなで今迄の苦労や、今日の試合ぶりを話し合っ  
て優勝の気分にあふれた。南高の庭球部はよき先生、先輩の指導にめぐまれたクラブであ  
り優勝出来たのも先生先輩の力と我々の努力の結果だと思っている。

これからも大いに努力して南校の庭球部をより良く強くなるようにしたい。

## 優勝のよろこび

女子 札幌静修高等学校

私たち静修庭球部は昨年に引き続き「全道2連勝」し、すべてのタイトルを手にしまし  
たことは、部員一同、喜びに耐えられません。しかし、この喜びもこの日一日で終わらねばな  
りません。全道優勝の後には全国大会が待っているのです。そのためにもわたしたち選手や  
その他部員たちは、その大会をめざし出来る限りの練習をしてきました。今年の全国大会  
は岡山市で行なわれましたが、残念なことに私たち団体戦は静岡城北高校に敗れてしま  
いました。個人戦は2回戦まで進んだものもありました。しかし、雪国に住む私たちの練習期  
間は、わずか6ヶ月足らず。そして中央大会出場となると大分差があるかも知れませんが、  
選手皆それぞれ実力を発揮し、その大会の出場によって強敵と対戦し、力いっぱい戦えた  
ことは心から喜べるのではないのでしょうか。冬の間、私たちの部は体育館や宇校の廊下、  
階段などを利用して皆おたがいに励まし合って冬季練習を行い、それによって南国の人た  
ちに負けられないようにしたいものです。これからの私たちの部はさらに練習に練習を重ねて  
「雪国は弱い」といわれている言葉を雪のように消してがんばりたいと思います。